

## 2013年5月 Rev27

## 1. 誌上発表（原著論文）

（薬品部）

- Ehmann F.<sup>\*1</sup>, Sakai-Kato K., Duncan R.<sup>\*1</sup>, Perez de la Ossa D H.<sup>\*1</sup>, Pita R.<sup>\*1</sup>, Vidal J-M.<sup>\*1</sup>, Kohli A.<sup>\*2</sup>, Tothfalusi L.<sup>\*1</sup>, Sanh A.<sup>\*3</sup>, Tinton S.<sup>\*1</sup>, Robert J.-L.<sup>\*4</sup>, Lima B.S.<sup>\*5</sup>, Amati M.P.<sup>\*6</sup>  
\*1 Nanomedicines Drafting Group, European Medicines Agency, \*2.Medicines & Healthcare products Regulatory Agency, \*3.Agence Nationale de Sécurité du Médicament & des Produits de Santé, \*4.Quality Working Party, European Medicines Agency, \*5.Lisbon University, \*6. Scientific Support & Projects,European Medicines Agency  
**Next-generation nanomedicines and nanosimilars: EU regulators' initiatives relating to the development and evaluation of nanomedicines**（次世代型ナノ医薬品とナノシミラー：ナノ医薬品の開発と評価に関する欧州規制当局者の新たな取り組み）  
*Nanomedicine* **8** (5) 849-856 2013

（生物薬品部）

- Harazono, A., Hashii, N., Kuribayashi, R., Nakazawa, S., Kawasaki, N.  
**Mass spectrometric glycoform profiling of the innovator and biosimilar erythropoietin and darbepoetin by LC/ESI-MS**（エリスロポエチン先行品及び後続品、並びにダルベポエチンのLC/ESI-MSを用いたグライコフォームプロファイリング）  
*J. Pharm. Biomed. Anal.* **83**, 65-74 (2013)

（生薬部）

- Amakura, Y.<sup>\*1</sup>, Yoshimura, M.<sup>\*1</sup>, Yamakami, S.<sup>\*1</sup>, Yoshida, T.<sup>\*1</sup>, Wakana D., Hyuga M., Hyuga S.<sup>\*2</sup>, Hanawa, T.<sup>\*2</sup>, Goda, Y.  
\*1 松山大学薬学部, \*2 北里大学東洋医学総合研究所  
**Characterization of phenolic constituents from ephedra herb extract.**（麻黄のフェノール性成分の構造）  
*Molecules*, **18**, 5326-5334 (2013)
- Fuchino, H.<sup>\*1</sup>, Daikonya, A.<sup>\*1</sup>, Kumagai, T.<sup>\*1</sup>, Goda, Y., Takahashi, Y.<sup>\*2</sup>, Kawahara, N.<sup>\*1</sup>  
\*1 医薬基盤研究所薬用植物資源研究センター, \*2 エムエス・ソリューションズ（株）  
**Two new labdane diterpenes from fresh leaves of *Leonurus japonicus* and their degradation during drying.**（新鮮な *Leonurus japonicus* 葉からの二つの新規ラブダンジテルペンと乾燥時におけるその分解）  
*Chem. Pharm. Bull.*, **61**(5), 497-503 (2013)

（食品添加物部）

- Ohtsuki, T., Sato, K., Furusho, N., Sugimoto, N., Akiyama, H.  
**Absolute quantification of dehydroacetic acid in processed foods using quantitative <sup>1</sup>H NMR (定量 NMR を用いた加工食品中のデヒドロ酢酸の絶対定量)**  
*Food Chemistry*, **141**, 1322-1327 (2013)
- Abe, Y., Yamaguchi, M., Mutsuga, M., Akiyama, H., Kawamura, Y.  
**Volatile Substances in Polymer Toys Made from Butadiene and Styrene (ブタジエンおよびスチレンから製造された樹脂製玩具中の揮発性物質)**  
*American Journal of Analytical Chemistry*, **4**, 229-237 (2013)
- (衛生微生物部)
- Hara-Kudo, Y., Kumagai, S.<sup>\*1</sup>, Konuma, H.<sup>\*2</sup>, Miwa, N.<sup>\*3</sup>, Masuda, T.<sup>\*4</sup>, Ozawa, K.<sup>\*5</sup>, Nishina, T.<sup>\*3</sup>  
<sup>\*1</sup> 東京大学大学院農学生命科, <sup>\*2</sup> 東海大学海洋学部, <sup>\*3</sup> 東海大学短期大学部, <sup>\*4</sup> 静岡県環境衛生科学研究所, <sup>\*5</sup> 中部衛生検査センター  
**Decontamination of *Vibrio parahaemolyticus* in fish by washing with hygienic seawater and impacts of the high level contamination in the gills and viscera. (魚における清浄海水での洗浄による腸炎ビブリオの除染および鰓と内臓における高菌数レベルの汚染の影響)**  
*J. Vet. Med. Sci.* **75**, 589-596 (2013)
- (代謝生化学部)
- Igarashi, N.<sup>\*</sup>, Takeguchi, A.<sup>\*</sup>, Sakai, S., Akiyama, H., Higashi, K.<sup>\*</sup>, Toida, T.<sup>\*</sup>  
<sup>\*</sup> Chiba University  
**Effect of Molecular Sizes of Chondroitin Sulfate on Interaction with L-selectin (L-セレクトインとの相互作用におけるコンドロイチン硫酸分子サイズの影響)**  
*Int. J. Carbohydr. Chem.*, **2013**, 1-9, article ID 856142 (2013)
- (医薬安全科学部)
- Sai, K., Hanatani, T., Azuma, Y., Segawa, K., Tohkin, M., Omatsu, H.<sup>\*</sup>, Makimoto, H.<sup>\*</sup>, Hirai, M.<sup>\*</sup>, Saito, Y.  
<sup>\*</sup> 神戸大学医学部附属病院薬剤部  
**Development of a detection algorithm for statin-induced myopathy using electronic medical records (病院情報システムを用いたスタチン誘発性筋障害の検出アルゴリズムの構築)**  
*J. Clin. Pharm. Ther.*, **38**, 230-235 (2013)
- (毒性部)
- Okuno, Y.1), Ohtake, F., Igarashi, K., Kanno, J., Matsumoto, T.2), Takada, I.3), Kato, S.4) and Imai, Y.1)  
 1) 東京大学, 2) 徳島大学, 3) 東京大学, 4) 相馬中央病院  
**Epigenetic Regulation of Adipogenesis by PHF2 Histone Demethylase. (ヒストン脱メチル化酵素 PHF2 による脂肪生成のエピジェネティック制御)**  
*Diabetes.*, **62**, 1426-1434 (2013)

## (薬理部)

- Ishida, K. \*, Kotake, Y. \*, Miyara, M. \*, Aoki, K. \*, Sanoh, S. \*, Kanda, Y., Ohta, S. \*  
\*広島大学  
**Involvement of GluR2 decrease in lead-induced neuronal cell death. (鉛による細胞死における GluR2 の関与)**  
*J. Toxicol. Sci.* **38**, 513-21 (2013)
- Yamada, S, Kotake, Y\*, Sekino, Y, Kanda, Y.  
\*広島大学  
**AMP-activated protein kinase-mediated glucose transport as a novel target of tributyltin in human embryonic carcinoma cells.(ヒト胎児性癌細胞におけるトリブチルスズの新規標的としての AMPK を介する糖輸送)**  
*Metallomics* **5**, 484-91 (2013)

## (変異遺伝部)

- Matsuda T\*, Takamune M, Matsuda Y\*, Yamada M  
\* 京都大学 流域圏総合環境質研究センター  
**A Pilot Study for the Mutation Assay Using a High-throughput DNA Sequencer (次世代シーケンサーを用いた突然変異試験のパイロット実験)**  
*Genes & Environ.* , **35**(2), 53-56, 2013

## 2. 誌上発表 (総説・解説等)

## (薬品部)

- 加藤くみ子  
**DDS 製剤開発の活性化と実現に向けた取り組みについて**  
*薬剤学* **73**(3) 187-188 2013

## (遺伝子細胞医薬部)

- 草川森士\*, 佐藤陽治  
\* (公財) 先端医療振興財団  
**再生医療・細胞治療のレギュレーション—日米欧三極の比較—**  
*再生医療*, **12**(2), 145-149 (2013)

## (衛生微生物部)

- 大西 貴弘  
***Kudoa septempunctata* 感染症**  
*化学療法*の領域, **29** 巻 増刊号, 258-263 (2013)
- 小西良子, 鎌田 洋一, 大西 貴弘  
**新しい寄生虫性食中毒**  
*感染症*, **43**(2), 25-28 (2013)

## (代謝生化学部)

- 安達玲子, 中村里香, 酒井信夫, 手島玲子  
**加水分解タンパク質の経皮感作能**  
*臨床免疫・アレルギー科*, **59**(5), 598-602 (2013)

## (安全情報部)

- 天沼喜美子, 青木良子  
**欧米における医薬品リスク管理計画の状況**  
*レギュラトリーサイエンス学会誌*, **3**(2), 133-142 (2013)
- 畝山智香子

**食の安全とは\***日本食品安全協会会報, **8(2)**, 47-51 (2013)

(薬理部)

- 小島 肇  
技術講座 安全性評価試験 (19) 遺伝毒性試験－  
エイムス試験  
COSME TECH JAPAN, **3 (5)** 82-85 (2013)

**3. 単行本**

(薬品部)

- 坂本知昭  
医薬品倉庫管理と物流・輸送品質の留意点－GDP、  
PIC/S GMP、GMP 適合性調査を踏まえた－  
情報機構, 東京都, 2013, pp125-130  
医薬品製造及び流通のグローバル化に伴うサプライ  
チェーンの管理体制の強化ならびに流通品質の向上  
に関連する GDP 等の基準・規範について、わが国に  
おける現状と今後の展望について解説した。

(生物薬品部)

- 多田 稔, 石井明子, 川崎ナナ  
新薬開発にむけた臨床試験(第 I ～ III 相臨床試験)で  
の適切な投与量設定と有効性/安全性評価  
サイエンス&テクノロジー株式会社, 東京(2013),  
pp. 72-86  
第 4 章 第 2 節 バイオ医薬品の章で, 新薬開発にむ  
けた臨床試験(バイオ医薬品のヒト初回投与試験)で  
の適切な投与量設定と有効性/安全性評価について本  
書の一部を著述した。

(生活衛生化学部)

- 五十嵐良明  
動物実験代替安全性試験プロトコル集 第 3 章  
Local Lymph Node Assay (LLNA)  
(株)シーエムシー出版, 東京 (2013), pp.45-54  
皮膚感作性試験の動物代替法として開発され,  
OECD テストガイドラインに採用されている local  
lymph node assay (LLNA)の試験原理, 操作法, 判定  
法など実際の手技をプロトコル形式で説明するとと  
もに, 試験上の注意点を詳細に解説した。

(薬理部)

- 小島肇  
動物実験代替安全性試験プロトコル集  
CMC 出版, 東京 (2013) pp.3-10  
動物実験代替法の意義と今後として, 動物実験に関  
する国際機関の活動に言及した。

(変異遺伝部)

- 本間正充  
動物実験代替安全性試験プロトコル集  
シーエムシー出版, 東京都, 2013 年 5 月, p.169-186  
ほ乳類細胞を用いた *in vitro* 小核試験

**4. 学会・講演等**

(薬品部)

- 伊豆津健一, 四方田千佳子, 奥田晴宏, 川西 徹  
**3D X線マイクロCTスキャンを用いた凍結乾燥医薬品の評価:**  
**凍結後熱処理と氷晶核形成誘導の影響**  
 日本薬剤学会第28年会 (2013.5) (名古屋)
  - 宮崎玉樹, 阿曾幸男, 奥田晴宏  
**高分子で被覆した非晶質ニフェジピン固体表面の結晶化抑制**  
 日本薬剤学会第28年会 (2013.5) (名古屋)
  - 小出達夫, 香取典子, 奥田晴宏  
**近赤外イメージングによる製剤の混合均一性評価における**  
**医薬品原料の粒子径の影響についての検討**  
 日本薬剤学会第28年会 (2013.5) (名古屋)
  - 加藤くみ子, 日高 征幸, 運 敬太, 川西 徹, 奥田 晴宏  
**シリカ粒子, 酸化チタンの物理的・化学的特性と *in vitro* 腸管吸収モデルによる細胞透過性との関連性について**  
 日本薬剤学会第28年会 (2013.5) (名古屋)
  - Katori, N.  
**The Guidelines for BMV in Japan - update of status and main items** (日本におけるバイオアナリシス分析バリデーション指針の要点)  
 9) 7th Workshop on Recent Issues in Bioanalysis (7th WRIB), April 8 - 11, 2013, Long Beach, CA, USA.
  - Tomoaki Sakamoto, Tetsuo Sasaki\*, Hiroko Kimura\*, Ohki Kambara\*, Tadao Tanabe\*\*, Yukio Hiyama, Noriko Katori, Haruhiro Okuda  
 \*Shizuoka University, \*\*Tohoku University  
**Application of terahertz/far-infrared spectroscopic analysis of an active pharmaceutical ingredient (API) and other medical additives for a pharmaceutical process analytical technology (PPAT)** (製薬プロセス解析工学のための主薬及び添加剤の遠赤外/テラヘルツ分光分析の応用)  
 International Workshop on Optical Terahertz Science and Technology, Kyoto (2013.4)
- (生薬部)
- 合田幸広  
**多成分系としての生薬・漢方製剤の特徴と課題**  
 日本薬剤学会第28年会 (2013.5) (名古屋)
- (遺伝子細胞医薬部)
- 佐藤陽治  
**再生医療・細胞治療の規制に関する国際比較**  
 日本バイオマテリアル学会2013年度第1回セミナー (2013.5) (東京)
- (医療機器部)
- Shingo Niimi  
**Immunogenicity Evaluation of Biotechnology-derived Drugs Including Biosimilar Therapeutic Monoclonal Antibodies.** (バイオシミラー抗体医薬品を含むバイオ医薬品の免疫原性評価)  
 URI/EpiVax Westin Immunogenicity Seminar 2013

- The Westin Tokyo Kiri Room Thursday, May 9, 2013
- 澤田留美  
再生医療製品に使用される間葉系幹細胞の安全性  
評価法の確立を目指して  
日本バイオマテリアル学会 2013 年度第 1 回セミナー  
東京, 2013 年 5 月
  - 松岡 厚子, 澤田 留美, 加藤 玲子, 河野 健  
次世代医療機器評価指標作成事業 —再生医療分野  
審査 WG 活動報告  
日本バイオマテリアル学会 2013 年度第 1 回セミナー  
東京, 2013 年 5 月
- (生活衛生化学部)
- 内野正, 竹澤俊明<sup>\*1</sup>, 山下邦彦<sup>\*2</sup>, 小島肇, 清水久美子, 秋山卓美, 五十嵐良明  
<sup>\*1</sup>農業生物資源研究所、<sup>\*2</sup>(株)ダイセル  
**Development of skin sensitization test method  
utilizing THP-1 cells cultured on a collagen vitrigel  
membrane chamber (コラーゲンビトリゲル膜チャン  
バーに培養した THP-1 細胞を用いた皮膚感作性  
試験法の開発)**  
日本組織培養学会第 86 回大会(2013.5)(つくば市)
- (食品部)
- 片岡 洋平、渡邊 敬浩、石川 智子、松田 りえ子  
ミネラルウォーター中のホルムアルデヒド、ジクロ  
ロアセトニトリル、フタル酸エステル分析法の検討  
第 105 回日本食品衛生学会学術講演会, 2013.5 (東京  
都江戸川区タワーホール船堀)
  - 菊地 博之、渡邊 敬浩、赤木 浩一<sup>1</sup>、松田 り  
え子  
福岡市保健環境研究所  
魚介類中のメチル水銀を対象とした GC-MS 法の改  
良  
第 105 回日本食品衛生学会学術講演会, 2013.5 (東京  
都江戸川区タワーホール船堀)
  - 鍋師裕美、堤 智昭、蜂須賀暁子、松田りえ子  
食品中の放射性ストロンチウムと放射性セシウム  
存在比について  
第 105 回日本食品衛生学会学術講演会, 2013.5 (東京  
都江戸川区タワーホール船堀)
  - 堤 智昭、足立利華、松田 りえ子  
燻製食品中の多環芳香族炭化水素の分析  
第 105 回日本食品衛生学会学術講演会, 2013.5 (東京  
都江戸川区タワーホール船堀)
- (食品添加物部)
- 伊藤裕才, 石附京子, 多田敦子, 杉本直樹, 穂山 浩  
既存添加物「カロブ色素」の成分解析  
日本食品衛生学会 第 105 回学術講演会(2013.5)(東  
京都江戸川区)
  - 建部千絵, 鐘 熙寧, 小宮沙登美, 大槻 崇, 久保田  
浩樹, 佐藤恭子, 穂山 浩  
食品中の未指定塩基性タール色素の分析法の検討  
日本食品衛生学会 第 105 回学術講演会(2013.5)(東  
京都江戸川区)

- 戸井田敏彦<sup>\*1</sup>, 東 恭平<sup>\*1</sup>, 建部 (佐々木) 千絵, 佐藤恭子, 穂山 浩  
<sup>\*1</sup>千葉大学大学院薬学研究院  
**食品添加物のアルギン酸およびアルギン酸塩の定量法について**  
 日本食品衛生学会 第 105 回学術講演会(2013.5)(東京都江戸川区)
- 佐藤恭子  
**第 3 版食品中の食品添加物分析法に向けて**  
 日本食品衛生学会 第 105 回学術講演会シンポジウムⅡー食品中の食品添加物分析の現状と課題ー  
 タワーホール船堀 (東京都江戸川区)(2013.5)
- (衛生微生物部)
- 小林直樹、齊藤志保子<sup>\*1</sup>、古川一郎<sup>\*2</sup>、河野智美<sup>\*3</sup>、青木佳代<sup>\*3</sup>、前田詠里子<sup>\*4</sup>、江藤良樹<sup>\*4</sup>、堀川和美<sup>\*4</sup>、小西良子、工藤由起子。  
<sup>\*1</sup>秋田県健康環境センター, <sup>\*2</sup>神奈川県衛生研究所, <sup>\*3</sup>滋賀県衛生科学センター, <sup>\*4</sup>福岡県保健環境研究所  
**腸管出血性大腸菌の病原因子保有パターンと臨床症状の対応についての解析。**  
 第 105 回日本食品衛生学会 (2013.5) (東京都・江戸川区)
- 鎌田洋一, 門間千枝<sup>\*1</sup>, 入倉大祐, 渡辺麻衣子, 仲真晶子<sup>\*1</sup>, 甲斐明美<sup>\*1</sup>, 川上 浩<sup>\*2</sup>, 小西良子  
<sup>\*1</sup>東京都健康安全研究センター, <sup>\*2</sup>共立女子大学  
**エンテロトキシン非産生性ウエルシュ菌食中毒事例株における新規下痢毒素の同定**  
 第 105 回 日本食品衛生学会学術講演会 (2013.5) (東京・江戸川区)
- Ohnishi, T., Kikuchi, Y., Furusawa, H., Yoshinari, T., Yamazaki, A., Kamata, Y., Sugita-Konishi, Y.  
**Invasion of *Kudoa septempunctata* increases the permeability of human intestinal epithelial monolayer.**  
 IAFP European Symposium (2013.8) (Marseille, France)
- Abe R<sup>\*1</sup>, Kaigome R<sup>\*1</sup>, Matsumoto H<sup>\*1</sup>, Takagi H<sup>\*1</sup>, Ohkawa H<sup>\*2</sup>, Yoshinari T, Sugita-Konishi Y  
<sup>\*1</sup>Ushio Inc. <sup>\*2</sup>Reserch Center for Enviromental Genomics, Kobe University  
**A Q-body Assay for DON and NIV in Wheat (小麦中の DON と NIV の Q-body によるアッセイ)**  
 ISM-MycRed International Conference Europe 2013(2013.5)( Martina Franca, Italy)
- 工藤由起子  
**腸炎ビブリオの魚介類での汚染実態の解明および生残性の解析に関する研究**  
 日本食品衛生学会第 105 回学術講演会。  
 タワーホール船堀 (2013.5) (東京都・江戸川区)
- (有機化学部)
- Demizu, Y., Nagoya, S., Sato, Y., Doi, M.<sup>\*1</sup>, Tanaka, M.<sup>\*2</sup>, Kurihara, M.  
<sup>\*1</sup>大阪薬大, <sup>\*2</sup>長大院医歯薬総合  
**Development of stabilized helical peptides for**

**VDR-coactivator interaction inhibitor (安定化ヘリカルペプチドによるビタミンD受容体-コアクチベータ結合阻害剤の創製)**

The 23rd French-Japanese Symposium on Medicinal and Fine Chemistry, Nagasaki (2012.5)

- Oba, M.<sup>\*1</sup>, Kato, I.<sup>\*1</sup>, Demizu, Y., Kurihara, M., Doi, M.<sup>\*2</sup>, Takano, Y.<sup>\*3</sup>, Suemune, H.<sup>\*3</sup>, Tanaka, M.<sup>\*1</sup>

<sup>\*1</sup>長大院医歯薬総合, <sup>\*2</sup>大阪薬大, <sup>\*3</sup>九大院薬

**Synthesis of cyclic  $\alpha$ -amino acids bearing a pendent chiral center and conformational studies on peptides containing their amino acids in Aib sequence (ペンダント型不斉中心を持つ環状 $\alpha$ -アミノ酸の合成とペプチドの構造解析)**

The 23rd French-Japanese Symposium on Medicinal and Fine Chemistry, Nagasaki (2012.5)

(代謝生化学部)

真野潤一<sup>\*1</sup>、中村公亮、近藤一成、手島玲子、高畠令王奈<sup>\*1</sup>、橘田和美<sup>\*1</sup>

<sup>\*1</sup>(独)農研機構 食品総合研究所

**デジタルPCRを利用した遺伝子組換え農産物の高精度定量**

日本食品衛生学会第105回大会 (2013.5) (東京都江戸川区)

- 安達玲子, 酒井信夫, 木村美恵, 中村里香, 福富友馬\*, 手島玲子

\*国立病院機構相模原病院臨床研究センター

**小麦タンパク質経皮感作能への酸加水分解の効果に関するマウスモデル実験系を用いた検討**

第25回日本アレルギー学会春季臨床大会 (2013.5) (神奈川県横浜市)

- Sakai S., Nakamura R, Nakamura R, Adachi R, Teshima, R.

**Food allergic proteins in lactose as the pharmaceutical excipient (医薬品添加物の乳糖に含まれる食物アレルギー性タンパク質について)**

INNUNOLOGY 2013 (2013.5) (Honolulu, HI, US)

(安全情報部)

- 森田 健

**ECVAMワークショップ報告「Ames陽性のフォロアアップとして *in vitro* 哺乳類細胞試験は利用可能か？」**

日本環境変異原学会 MMS 研究会第62回定例会 (2013.5) (長野県下諏訪町)

(毒性部)

- Okubo, Y., Sugawara, T.\*, Abe, N.\*, Kanno, J., Kimura, A.\*, Saga, Y.\*

\*National Institute of Genetics

**Lfng regulates the synchronized oscillation of the mouse segmentation clock via trans-repression of Notch signaling (LfngはNotchシグナルをトランスに抑制することでマウス体節時計の同調した振動を制御する)**

第46回日本発生生物学会 (2013.5) (島根県松江市)

(薬理部)



- 押方歩\*, 石田誠一, 竹澤俊明\*  
\* (独) 農業生物資源研究所  
コラーゲンビトリゲル膜チャンバーを用いたヒト  
肝がん細胞の不活化培養法の開発とその肝代謝・毒性  
評価システムへの応用  
日本組織培養学会第86回大会(2013.5) (茨城県つくば市)

## 5. レギュラトリーサイエンス関連国際会議報告

(生薬部)

- 袴塚高志  
**International Organization for Standardization (ISO) TC249 Plenary Meeting (国際標準化機構 TC249 第4回全体会議)**  
ダーバン (南アフリカ), 2013年5月20日~23日  
国際標準化機構(ISO)TC249 (中国伝統医学 (仮題) 専門委員会) に参加し, 東アジア伝統医薬の原料生薬, 製品, 医療機器が安全かつ有効に使用されるための国際規格について審議した。また, 日本より提案した天然物由来医薬品の製造工程に関する標準案が, 新作業提案投票に進むことになった。

(食品部)

- 根本 了  
**The 45th Session of the CODEX COMMITTEE on PESTICIDE RESIDUES(CCPR).[FAO/WHO 合同食品規格計画 (コーデックス委員会) 第45回コーデックス残留農薬部会 (CCPR) ]**  
北京 (中国), 2013年5月5日~5月11日  
62加盟国, EU 及び13国際機関 257名が参加し, 食品中残留農薬の最大残留基準値 (MRL) 設定, 食品の Codex 分類, リスク分析の原則, 食品群への農薬の MRL の外挿のための代表作物選定の原則, マイナー作物等に係る MRL 設定のガイダンス策定, 農薬に関する Codex 優先リストの策定及び残留農薬分析法の評価基準の策定等について議論された。

(安全情報部)

- 登田美桜  
**The Seventh Session of the Codex Committee on Contaminants in Foods (第7回コーデックス食品汚染物質部会)**  
モスクワ (ロシア), 2013年4月8日~12日  
第7回コーデックス食品汚染物質部会では, 63加盟国, 1加盟機関, 11国際機関より合計213人が参加し, 食品中汚染物質のコーデックス規格に関する20議題について討議を行った。

(毒性部)

- 菅野 純  
**the Meeting of the Extended Advisory Group on Molecular Screening OECD 分子スクリーニングとトキシコゲノミクスの拡大アドバイザーグループ会合**  
フランス・パリ, 2013年5月14-15日  
トキシコゲノミクスの試験と評価に関して、

OECD/IPCS において組織されたトキシコゲノミクスの試験及び評価に関するアドバイザーグループ会合に出席した。最新の情報の交換と、それらの扱いに関する討議、また、関連する活動として当毒性部で遂行しているプロジェクトについて報告を行った。

- 菅野 純

**the workshop on Moving Forward in Human Cancer Risk Assessment in the Genomics Era 2.0 ゲノミクス時代におけるヒト癌リスク評価のためのワークショップ**

フランス・パリ, 2013年5月16-17日

海外に於いて急速に進められている遺伝子発現解析標準化に向けた検討、トキシコゲノミクスの試験と評価に関して開催される会合であり、毒性予測と評価の一層の迅速化・高精度化を促進することを目的とした研究を進めるに際し非常に重要なものであった。

(薬理部)

- 小島 肇

**OECD Extended Advisory Group on Molecular Screening and Toxicogenomics Meeting (OECD 分子スクリーニング及びトキシコゲノミクス拡大助言会議)**

パリ (フランス), 2013年5月14-15日

OECD で進んでいる AOP (有害性転帰経路) に関するプロジェクトの仕組みおよび進捗に関する説明を受け、各国の代表と情報交換および意見交換をした。

(変異遺伝部)

- 本間正充

**ILSI/HESI GTTC (Genetic Toxicology Technical Committee) meeting; 健康環境科学研究所 遺伝毒性試験技術委員会会議**

米国 ワシントン DC ワシントンプラザホテル  
2013.4.15-17

健康環境科学研究所が主催する遺伝毒性試験委員会会議。遺伝毒性試験結果の定量的評価、遺伝毒性試験データの評価法、生殖細胞遺伝毒性評価法、ナノ物質・生体物質の以前毒性評価法、既存試験法の改良、新規試験法について議論を行った。

- 本間正充

**Extended Advisory Group on Molecular Screening and Toxicogenomics ; 分子スクリーニングとトキシコゲノミクスに関する拡大顧問グループ会議**

フランス パリ OECD 2013.5.14-15

分子スクリーニングとトキシコゲノミクスに関する拡大顧問グループ会議。主として、トキシコゲノミクスに関する最近の活動状況の報告、OECD で AOP 開発のための手法とこれまでの進め方、HTS 解析の相互理解を深めるための方法と活動などについて議論された。

- 本間正充

**Workshop "MOVING FORWARD IN HUMAN CANCER RISK ASSESSMENT IN THE**

**GENOMICS ERA 2.0" ; 新たなゲノミクス時代におけるヒトでのがんリスク評価への動向**  
フランス パリ OECD 2013.5.16-17  
ゲノミクスアプローチの最新の手法や、医薬品開発や、環境汚染物質のリスク評価での適用条件・場面に関する議論を行った。

## 6.新聞・テレビ等

該当なし